

# 研究テーマ：スプリットフェイスを使った視覚と脳の関係

名列番号 047 長谷川 洋徳

## 1. まえがき

私たちは人を同定するとき主に顔の左半分から行っているといわれている。このことを実際に確かめ、またいろいろな状況下でどう変化するかを調べる。

## 2. 研究課題

- 顔の左半分から同定していることの確認
- 知っている人物（芸能人）の場合どうなるか
- 同定するときには男女差はあるか
- 表情があるときはどうなるか

## 3. 実験方法

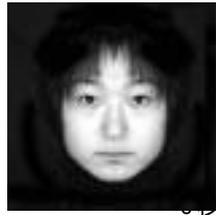
オリジナルの顔



4秒表示

左側からできている顔

右側からできている顔



被験者が判断

### 手順

まず4秒間オリジナルの顔尾を見せよう。つぎに、写真の顔の右だけから作った顔と左だけから作った顔を同時に表示し、どちらが似ているか判断してもらおう。（今回の実験の被験者数は28人）

## 4. まとめと考察

- 顔の左半分（知らない人物）から同定していることの確認

左側の顔が似ている …… 19人（68%）

右側の顔が似ている …… 6人（32%）

よって正しいと確認できた。

- 知っている人物（芸能人）の場合どうなるか

左側の顔が似ている …… 8人（31%）

右側の顔が似ている …… 18人（69%）

よって知らない人の結果と逆で右側の顔から判断しているとわかった。

- 同定するときには男女差はあるか

男性の方を多く右の顔から同定した人数

…… 15人（54%）

女性の方を多く右の顔から同定した人数

…… 8人（18%）（ただし同数は削除した）

よって同性になるほど右側の顔で同定していた。

- 表情があるときはどうなるか

	左の顔が似ている	右の顔が似ている
無表情	19人（68%）	9人（32%）
少し笑っている	21人（75%）	7人（25%）
笑顔	23人（82%）	5人（18%）

よって表情があっても左の顔で判断するが、表情がある方がよりその傾向が高いとわかった。

## 5. 実験結果からわかったこと

1. 主に顔の左半分から本人と同定している。
2. 親近性や認知度が高くなるほど顔の左半分より右半分で同定するようになる。
3. 表情の露出度が多いほど顔の左側で同定の判定をする傾向が強くなった。

このことから

**右脳** …… 顔の表情などから独立した顔本来の特徴的情報を引き出すのに優れた、顔の処理における専門化したメカニズムを備えている。

**左脳** …… 蓄えた情報や顔の部分的な分析、またそれらの分類化に優れている。

ことがわかった。